

お母さん

4年前、2人で一緒に病院で告知を受けた日が、貴方との闘病の幕開けでした。肋骨に転移を疑う影があると聞いたとき、私は医者として、貴方をこの病で失うことを予見し、幾日も涙が涸れるほど泣きました。

手術は朝から夜中までかかるとても大きな手術で、術後も辛いことが続きましたね。それでも病になんか負けてたまるかと、10年先まで計画を立てて手帳に書いたり、しゃべりにくくなったからと病室で発声練習をしたり、さすがお母さん！と思って見ていました。

その後は、再手術や放射線治療など、断続的に治療は続きましたが、主治医に「もっと真面目に考えてください」と怒られるほど、貴方はいつも明るく前向きでした。全て理解して受け入れられる強さゆえの明るさだったのにな。

東京でお父さんと三人で一緒に暮らした2月3月、本当に楽しかった。もちろん、日増しに体調が悪くなり、薄皮を剥ぐように色んな可能性を奪われるさまを見ていることは、とても悲しいことでした。それでも、一緒に料理をしたり、いろんな話ができ、かけがえのない時間でした。

お母さんは自分の人生を振り返って、「いや～楽しい人生だったわ。どの時代も楽しかった」と言っていましたね。食欲もなく、寝ていることも多くなってきた頃でさえ、「死にかけてるのに毎日楽しいなんて、私どこかおかしいのかしら？」とも言っていました。そして、亡くなる前日には、4月からの看病を一手に引き受けてくれているお父さんへの感謝を涙ながらに語っていました。出勤前に朝4時間かけて慣れない家事をやってくれること、『動けなくなったらホスピスに行くわ』と言うと、『動けなくなっても僕がおんぶするから、家に居て』と言ってくれること。私が看病すると遠慮するのに、お父さんだったらどうして良いのと聞くと、即座に「愛の大きさが違うもの」と答えましたね。そして、「こんなにやってくれているのに元気になってあげられないことが辛い」と涙ぐんでいました。

お母さん、あなたは、人は死んだら大気のエネルギーになると思っている、と言っていましたね。今、私たちの周りに居てくれますか？

あなたは私にとっては母であると同時に、一人の人間として道しるべとなる存在です。これからの人生、あなたのように前向きで、正義感が強く、勇敢で、愛情溢れる人になれるよう、私なりに歩いていきます。

お母さん、お母さん、ありがとう。

佳奈子